

給食センターは既存の口之津、深江のセンターと新センターの3カ所での運用をすべきでは

市長/検討した上で1センターとすることが適当との結論である。



田中次廣 議員

学校給食センター建設について

議員 令和元年第1回定例会で、市長は、施設見直しに当たっては、これまでの議員の意見などを踏まえ、総合的な判断をしなければならぬと考えていると、また平成31年度の施政方針でも、学校給食センターの建設については現在、設計業務を進めているが、市民の皆様や議員の指摘を受け、設計の内容、供用開始時期を含めて見直しを行っているとおりますとある。

市民や議員の指摘が見直し、検討の中に生かされたのか。

市長 見直すということとは、それぞれの段階で、関係者の皆さん方と積み上げてきたということについて、それを御破算にするということではなくて、検討を加えると、そういう考え方を持っており発言したところである。

議員 議員への説明で新センターへの統合の時期、建設費、運営費を考慮し1センターとすることが適当との結論に達したとのことだが、私は建設費、運営費だけではなく、食育、地産地消、納入業者等々、決定するに当たっては、まだ検討しなくてはならない項目がある、この様なこと等を十分検討した上で、そういった結論を出すべきと

思っている。あくまでも市長は1センター方式で行うということなのか。
市長 そういうことで今回提案をさせていただいている。

アートビレッジ・シラキノについて

議員 昨年9月3日に開所して1年経過したが、どのような事業が行われ、また利用者は。

教育次長 現在も3名の若手版画家がアートビレッジ・シラキノに滞在し、創作活動を行いながら体験型講座などを開催しており、7月には市内小・中学校の教員を対象にした銅版画のワークショップ、体験型講座を実施している。

来館者は昨年9月の開設からことしの3月まで1,759名で、今年度は8月末までに351名となっている。



アートビレッジ・シラキノ

質問の様子を動画で見よう



原城跡の史跡の公有化についての考えは

教育次長/史跡を保護、保全、活用するために史跡全体の公有化を目指している。



中村哲康 議員

世界遺産について

議員 史跡の公有化の費用はどこから捻出しているのか。

教育次長 国の補助事業を活用しており、国庫補助金が80%、県補助金が8%、市が12%で実施している。

議員 真砂で、レンタサイクルを貸し出しているようだが、購入費と利用料金はいくらか。

地域振興部長 購入金額は20台で288万5,560円、料金は無料。
議員 購入や維持管理に

も税金を投入しているのであれば、料金を徴収すべきではないのか。

地域振興部長 現時点では特段、経常的にかかる経費はない。

議員 原城跡への入場料の徴収、シャトルバス、レンタサイクルの有料化について市の考えを伺う。

教育次長 現在のところ、原城跡内には市道が通り、畑の耕作者なども行き来され、市民の生活の場となっているため、入場料を徴収することは考えていないが、今後来訪者の状況なども見ながら研究していきたいと思っている。

農業振興について

議員 新規就農者に対して国や県、市、その他からどのような補助があるのかを伺う。

農林水産部長 まず、市が窓口となり、県が認定機関ということで実施している、農業次世代人材投資事業について説明する。この制度は、農業経営開始5年後の所得目標

を定めた青年等就農計画が、市から認定を受けた認定新規就農者であることを唯一の条件とし、生活資金の給付を個人で年間150万円、夫婦で年間225万円、最長5年間受けられる制度である。このほか、認定新規就農者であることを条件に、農業機械や施設の導入等に対して、最高1億円の無利子融資を受けることができる、青年等就農資金制度などがある。市単独事業としては、新規就農者を含む青年農業者団体の運営に対して補助を行い、研修や仲間づくりの支援を行っている。



真砂で貸し出しているレンタサイクル

質問の様子を動画で見よう

